令和５年度

渋谷区立常磐松小学校　学校経営方針

渋谷区立常磐松小学校
校長　　加藤　真寿美

Ⅰ　学校教育目標

開校以来の校訓である「健康・勤勉・上品」を学校の宝として継承するとともに、人と人、人と自然、人と社会との関わりを大切にし、個性を生かしながら、他者と共に生きる力をもつ児童の育成を目指す。目指す児童像として「挑戦する子」「つながる子」「働く子」を掲げ、今年度は昨年度に引き続き「つながる子」の育成を重点とする。

○挑戦する子（自ら学び、考え、挑戦する力をもって行動する児童）
◎つながる子（相手のよさや違いを認め、協力し合う児童）
○働く子　　（体と心を鍛え、仲間や地域のために力を発揮する児童）

Ⅱ　目指す学校像

すべての児童が学ぶ楽しさと成長を実感できる学校
～学校は、学びの場・成長は、生きる原動力～

Ⅲ　経営の基本方針

３つの柱である【知】【徳】【体】のバランスのとれた育成を図る

１　【知】自ら学び、「できた」「わかった」「やってみたい」を実感できる学校

学校生活の多くを占める授業を充実させ、一人一人に確かな学力をつける。
授業がよくわかり、できた・わかった喜びや、やってみたいという向上心を子ども自身が実感できる。

（１）教師が進行役となる学習活動や、子供たち同士の対話により新たな価値や考えを見出そうとする学習活動を展開することで、個別最適な学びと協働的な学びを一体化した新たな学びを実現する。

（２）子供が見通しをもち、自己の学習を振り返ることができる授業を行うことで、問題解決学習「常磐松スタイル」を定着させる。

（３）インクルーシブ教育の考え方を取り入れ、発達段階や個人差に応じて、教材教具・授業展開等を工夫し学習効果を高める。ゆずりは教員との連携を図る。

（４）効果的な TT による指導や習熟度別少人数指導など授業形態を工夫し、「できない」「わからない」をそのままにしない。タブレット端末のインタラクティブスタディを活用する。

（５）補習教室（ステップアップ教室・1～3 年希望者）や漢字検定（全学年希望者）を実施し、基礎学力の定着を図る。

全ての教員が授業で勝負できる学校を目指します。

2　【徳】**自分も大事、みんなも大事、互いを尊重し合える学校**

信頼関係を基盤とした、学校風土・学級風土を構築する。

一人一人が大切にされているということを実感できる。

一人一人の児童に活躍の場があり、自己有用感を高める。「みんなちがって　みんないい」

（１）　全ての児童を全ての教職員で育てる。みんな我が子との思いで、全教職員が共通した指導を行う。

（２）　児童理解を深め、情報を学校全体で共有する。

（３）　前向きな働きかけやプラス言葉を心掛け、子供に寄り添った指導を行う。

（４）　ゴールをイメージした学級経営を行い、常に目標に立ち返り、１年間の成長を実感させる。

（５）　自分の居場所（自分を認めてくれる場･安心して力を発揮できる場）がある温かい学級をつくる。

（６）　たてわり班活動・異学年交流を充実させ、思いやりの心や協力する気持ちを育てる。

（７）　人権に関わる言動は絶対に許さないという姿勢を示し、いじめの未然防止に努める。

（８）　「いたずら・いじわる・いやがらせ」等、いじめに繋がる小さな兆しや変化を見逃さない。
タブレット端末の教育ダッシュボードを活用する。

（９）　言語環境を整え、相手への思いやりや敬意、時と場に応じた言葉遣いができるようにする。

（１０）いじめには、学校全体で組織的に対応する。早期発見・早期対応・組織的な対応に努める。
常磐松小学校いじめ防止基本方針に基づいた対応を行う。御確認ください。

（１１）「ときわまつのよい子」の指導を徹底し、基本的な生活習慣を確立するとともに、規範意識を醸成する。保護者向けの「常磐松小　スタンダード」を御確認ください。

（１２）「あいさつ・返事・言葉づかい」「靴をそろえる」を生活指導の重点とし、全校で取り組む。

全ての教職員が人間味で勝負できる学校を目指します。

3　【体】**明るく楽しく、健康に過ごせる学校**

じょうぶな体とたくましい心を育む環境をつくる。

（１）　中休みの全員外遊びや体育朝会（縄跳び・持久走等)、体力テスト週間の取組を充実させるなど、体を動かす場を計画的に設定する。

（２）　養護教諭・栄養職員を中心とした「すこやかタイム」を充実させ、健康教育・食育を推進する。

（３）　子供たちのチャレンジを後押ししたり、困難の克服経験を積み重ねさせたりすることを通して、あきらめずに最後までがんばる気持ちを育てる。「チャレンジを応援」「学校は失敗してもよいところ」「教室はまちがうところだ」

（４）　自分の気持ちや感情をコントロールできる力を育てる。ゆずりは教員との連携を図る。

（５）　ボランティア活動や地域行事に積極的に参加させ、仲間や地域の役に立つ経験を積み重ねることで、仲間や地域を愛し誇りに思える心を育成する。「渋谷シティプライド」

全ての教職員が健康で勝負できる学校を目指します。

Ⅳ　その他の視点

1　【教職員】学び続ける教職員のあふれる学校

互いに高め合う教職員集団を目指す。TLD の活用（水曜日の午後は、研修のための時間）

（1）　目的に応じた研修会を実施したり、学年 OJT を活用したりすることを通して、組織的な授業力向上・授業改善を図る。

（2）　日常的に授業を見合える環境をつくり、互いに切磋琢磨しながら学び合い・高めあう。

（3）　教職に自信と誇りをもち、協働して教育活動をつくりあげる。

2　【保護者・地域】地域を愛し、地域に愛される学校

地域・保護者との双方向の連携を図る。

（1）　HP・HS・学年だより等を充実させ、情報発信を積極的に行う。（毎日が公開）

（2）　保護者会や個人面談の場を活用し、保護者との対話を充実させる。

（3）　保護者・地域の方による GT（地域は先生）を各学年の授業に積極的に取り入れる等、地域から学ぶ環境を整える。

3　【安心・安全】子供たちの安心・安全を保障できる学校

危機意識を高くもち、様々な視点から安心・安全を守る。

（1）　全教職員が毎年マニュアルの見直し・確認を行い、訓練を形骸化させない。

（2）　施設・設備の点検を確実に行い、安全な環境を保つ。

（3）　「自分の命は、自分で守る」「自分の行動が、みんなの命を守る」

（4）　学校と保護者が、いつでも相談できる関係をつくる。

「安全」は何よりも優先すべき絶対条件を肝に銘じる。

4　【連携】交流活動・体験活動の推進

様々な人との関わりや経験から学び、成長につなげる。

（1）　保幼・保護者・地域・企業・外部団体・外部指導員による交流活動や体験活動を積極的に行う。（出会いは宝）「シブヤ未来科」

（2）　様々な人との触れ合いを通して人間関係を深め、思いやりや優しさなどの豊かな心を育む。

5　【特色ある教育活動】ICT を活用した授業・プログラミング教育の推進

論理的思考力や情報活用能力を育成する。

（1）　タブレット端末を使用した授業の日常化を継続する。

（2）　ICT 機器を有効に活用し、知識・技能の習得を図る。「タブレットタイム」

（3）　デジタルシティズンシップ教育を推進し、責任をもってタブレット端末を有効活用していくことができるように指導していく。